

第 1 学年 生活科学学習指導案

平成 30 年 9 月 27 日 (木)
調布市立北ノ台小学校
5 校時 (13:30～14:15)

- 1 大単元名「さいしょのいっぽ いちねんせいに なったら」
小単元名「きをつけてね」
- 2 単元の目標
 - ・交通安全, 災害安全, 生活安全 (防犯) に気を付けて登下校ができるようにする。
 - ・災害時の身の守り方や避難の仕方を知り、的確に行動することができる。
- 3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる。 ・災害時の行動を細分化し、ワークシート等を用いて、適切な順番に並び替えることができる。 (プログラミング的思考) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達, 通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える。 ・災害時の避難において、どのような行動をすればよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく安心して遊びや生活をしたり, 安全な登下校をしたりしようとする。 ・安全についての学習をふまえ、避難時は迅速に行動しよう意識している。

4 児童の実態

1 学期を終え、児童は学校やクラスでの生活に馴染めている様子がうかがえる。馴染めている一方で、校庭でのきまり、施設の使い方や通学路の歩き方の様子については、他学年や地域から困っていることの報告も受けている。

7 月の避難訓練は休み時間中の火事が原因による訓練であったが、教室ではない場所にいた、担任が近くにいなかった、などこれまでとは異なる内容であった。そのため、いつもより私語が多く、指示が通りにくい姿が見られた。

1 学期中の避難訓練における事前・事後指導では、災害が起きたときには、最後は自分で自分の身を守ることが大切、そのためには、避難訓練時には適切な行動を取ることも大切だという指導をしてきた。そこで、今回は避難の際の手順を学習し、安全に対する意識の深める時間を設定した。一連の行動を細分化し、自分の考えをまとめ、よりよい避難について学ぶことにより、避難時に適切な行動がとれると考えた。

5 単元について

本単元「さいしょのいっぽ いちねんせいに なったら」については、学習指導要領解説〔第 1 学年及び第 2 学年〕の目標及び内容に以下のように位置付けられている。

〔第 1 学年及び第 2 学年〕

1 目標

(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。

2 内容

(1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。

本単元では、交通安全、災害安全、生活安全（防犯）に気を付けて登下校ができるようにすることをねらいとし、学校内外の安全について学ぶ。

その後、防災ノートで災害についての学習を深め、学校での避難訓練を振り返る。教科書で学習したことを副教材で深め、今回の学習でよりよい考えと行動が身に付くようにしていきたい。

6 「プログラミング教育」との関連

本題材では、避難時にどのように行動するのが適切なのか考えるために、一つ一つの行動を細分化して提示したワークシートを使用する。その中の細分化したものから適切なものを選択し、適切な順序に並べることで、「順序を意識させること（順次処理）」、「間違い探し（デバッグ）」をさせることでプログラミング的思考を育てることができると考えた。

(1) 細分化した行動を並べる。【順次処理】

細分化した行動を並べて、適切な行動であるか考えさせる。なぜその順番にしたのか考え、相手に伝えることを意識させることで論理的思考力を養うことができると考えた。

(2) 避難時の行動をフローチャート化し、確かめる。【デバッグ】

避難時の行動をフローチャート化し、視覚的に理解させる。避難時のフローチャートが適切なのか検証するために、自分たちでフローチャート通りに行動して確かめる。

(3) プログラミング的思考を育てる授業の流れ

課題に対して、自分で考える（一つ一つに分けて考え、組み立てて構成する）→自分の考えを整理して話す・友達のことを聞く・分からないところは質問する→修正する（再構成）→自分の考えをまとめる、の流れにすることで、どの教科や領域でもプログラミング的思考を育てられると考える。

7 本時の学習活動

(1) 目標

○学校で火事や地震が起きたときの行動を考えることができる。

(2) 前時の学習活動

○前時までの学習活動（防災ノートを使った学習）を振り返る。

○避難訓練をプログラミングすることを知る。

○グループごとに災害の想定カード（教室で地震」「教室で火事」「廊下で地震」「廊下で火事」の4種類を用意）を引き、個人で避難訓練をプログラミングする。

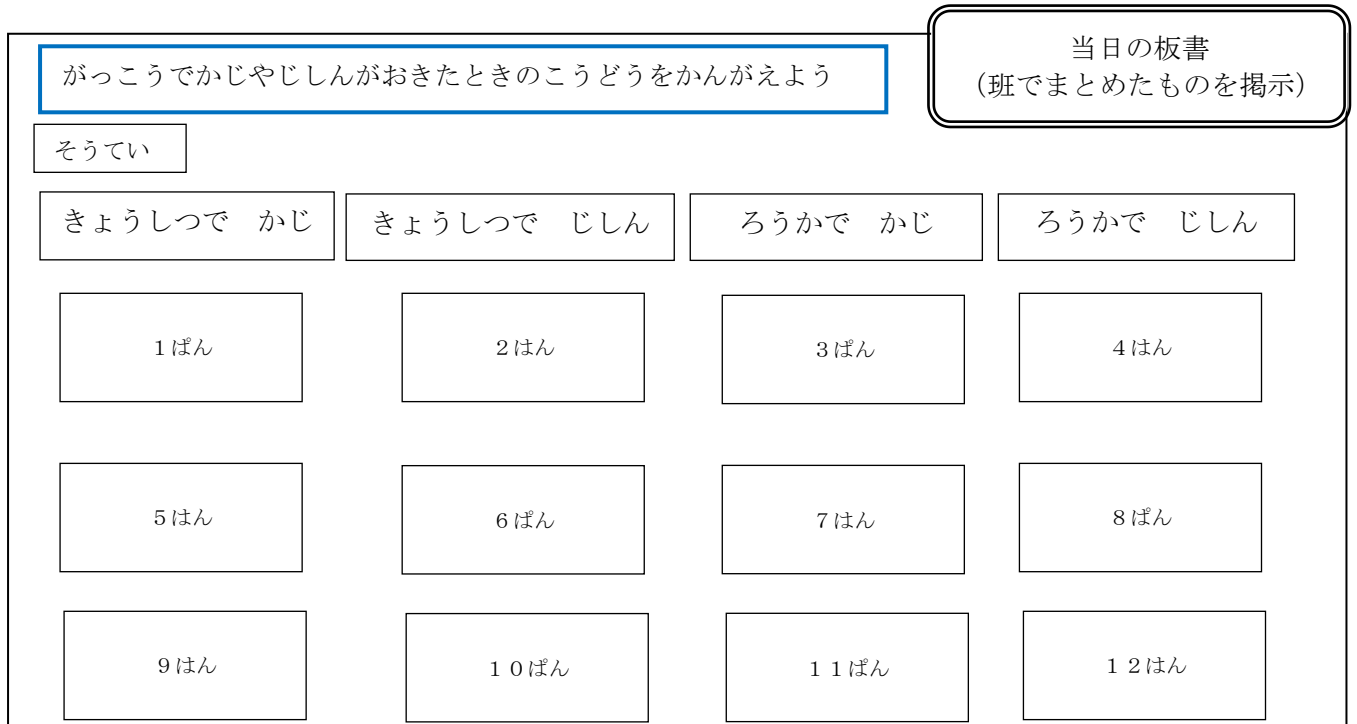
○プログラミングするには、ヒントとなるような一つずつの動きが書いてあるシートから選んでワークシートに書く。

○一つずつの動きが書いてあるシートを見て、自分で考えた行動がなければ、ワークシートに書き足してよいことにする。

(3) 本時の学習活動

	学習活動	○教師の支援 ☆評価
導入 3分	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時のめあてを知る。	○前時の学習内容を提示する。
	がっこうでかじやじしんがおきたときのこうどうをかんがえよう	
展開 15分 7分 5分 5分	3. グループ内で考えを持ち寄り、避難の行動をプログラミングする。 4. グループ内で2人は、自分たちとは違う想定カードを引いたグループに説明を聞きに行く。残った人は説明係になる。 5. 聞いたこと、話したことを振り返る。 6. ロールプレイをする。	○自分の考えを伝えた後に、グループでプログラミングする。 ○グループで行動をまとめる際は、実際に動いて確かめてから決定するようにする。 ○行く場所は担任が指定する。 ○説明係は、なぜそのような行動にしたのか説明する。 ○聞く側は、不明な点は質問する。 ○聞きに行った児童は、どんなことを聞いたか発表する。 ○説明した児童は、質問されたことを発表する。 ○自分たちが引いた想定での避難の仕方をやってみる。(非常ベルと緊急地震速報の音を流す。) ○自分たちの想定ではないときは、他グループの行動を見ている。
終末 10分	9. 振り返りをする。 10. 本時のまとめ	☆学校内での避難の仕方(異なる想定での相違点)について考えている。(ワークシート) ○どんな想定でも落ち着いて話を聞き、行動すること(「おかしも」の約束)の大切さを説く。 ○今日考えたことは、上級生(消防署の方)に発表し、良かったところと課題を伝えてもらうことを伝える。

(4) 板書計画



班で考えたものは消防署の方（もしくは上級生）に見ていただき、自分たちの考えている行動が適切か評価をいただく。

